

町内遺跡 24

平成19年度町内遺跡発掘調査概要報告書
(栗別府遺跡A・B地点確認調査)

2 0 0 8

宮崎県児湯郡・新富町教育委員会

序

新富町の文化財保護については日頃から深い御理解をいただき厚く御礼申し上げます。

本年度も町内の開発行為に伴う2地区の試掘調査を行いました。栗別府遺跡の調査では、河岸段丘上から黒曜石やチャートが出土し、人々の生活が広範囲に及んでいることが判明しました。また、検出された2基の土坑埋土からは木炭が検出され墓の可能性がありますが。本調査の成果が待たれるところです。

本町はこれら文化財の保護を推進し、学術研究はもとより広く生涯学習の素材として活用していく考えです。

最後になりましたが、調査に際してお世話になった関係各機関の方々に深く感謝を申し上げます。

平成20年3月

新富町教育長 米良 郁子

例言

1. 本書は平成19年度に宮崎県児湯郡新富町教育委員会が実施した緊急発掘調査の概要報告書である。
2. 発掘調査は、国庫補助事業「町内遺跡発掘調査等」を適用して行った。
3. 各遺跡の調査期間は本文中の表1～2に明記した。
4. 本書で使用した位置図は国土地理院発行の2万5千分の1図を基に作成し、調査範囲図はそれぞれ平板実測にて作成した50もしくは100分の1測量図をもとに作図した。
5. 本書で使用する方位は座標北（座標第Ⅱ系）であり、レベルは海拔絶対高である。
6. 遺構実測は、樋渡将太郎がおこなった。
7. 遺構・遺物の写真は樋渡が撮影した。
8. 整理作業は新富町教育委員会で行い、遺物実測及びトレースは樋渡が行った。
9. 本書の執筆・編集は樋渡がおこなった。
10. 出土遺物その他の記録はすべて新富町教育委員会生涯学習課に保管してある。

本文目次

I. はじめに	1～4ページ
II. 平成19年度の試掘確認調査	5～11ページ
III. まとめ	12ページ



新富町位置図

I. はじめに

1. 新富町の位置と概要

新富町は宮崎県中央部の日向灘沿岸に位置し、県庁所在地である宮崎市から約20km北にある。

北西部から南東部にかけては一ツ瀬川が蛇行しつつ東進し、その流域左岸部の沖積平野と標高70～90mの台地にかけて町域を有する。町面積は南北約7km、東西約9kmの約61km²で、隣接する市町村には西に西都市、北に高鍋町、南に宮崎市がある。

主幹産業は酪農や園芸を中心とした農業で、台地の中心部には航空自衛隊新田原基地があるため「やさいと基地の町」のイメージが強い。人口は約18,500人で、近年の道路交通網の整備にともない本町での宅地開発が活発になっている。

2. 新富町の文化財保護

町では昭和43年に文化財保護審議委員会を設置し、町内の文化財保護を推進している。指定文化財は国指定2、県指定2、町指定6があり、内訳は史跡2、天然記念物3、無形民俗3、有形文化財2である。

天然記念物には湯之宮座論梅・春日のイチョウ・アカウミガメの3件が指定されている。それぞれ下草管理や徒長枝剪定などを行っている。アカウミガメは列島の海岸面積の減少に関係してか毎年上陸頭数が少なくなっており、県下一斉の保護対策が求められている。無形民俗文化財には湯之宮棒踊り、元禄坊主踊り、新田神楽がある。各団体の自助努力により活発な活動が行われており、後継者を含めた総合的な支援が求められる。有形文化財には三納代神社の釈迦如来坐像と巖島神社の薬師如来立像があり、ほかに保存状態の良くないものや製作年代の古いものが多い。

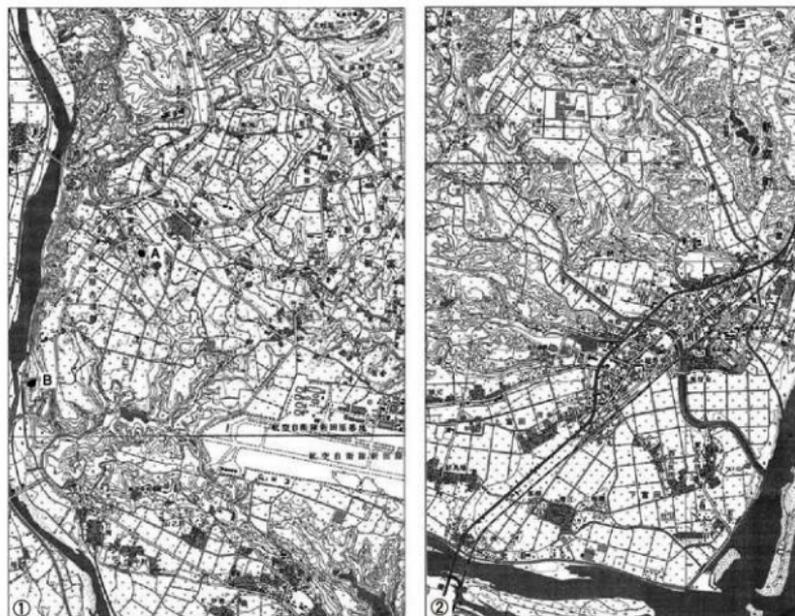
埋蔵文化財は開発行為によって消滅する頻度が高いため、年間を通じて調整・調査を行っている。史跡では国指定新田原古墳群の史跡整備を進行中で、平成9年度から発掘調査を行っている。

また町ですすめる総合文化公園整備事業で既存の文化会館のほかに図書館・歴史資料館を建設する予定があり、この歴史資料館（仮称）を中心に古墳群やその他文化財にガイドンスや案内板を設置し、見学や学習に寄与する予定である。

3. 埋蔵文化財の調査

昭和50年代に始まった畑地帯のほ場整備にともない埋蔵文化財発掘調査がかなりの面積にわたって行われてきた。これら大規模調査の成果によって、1982年に行った遺跡詳細分布調査における「周知の遺跡」はその数が飛躍的に多くなった。

また、近年の町内における開発行為によって、周知の埋蔵文化財包蔵地外からの遺跡の発見が相次いだ。このため平成16年度から18年度にかけて「第2次遺跡詳細分布調査」を行い、18年度中にその成果をまとめた「新富町の埋蔵文化財（改訂版）」を発行した。



0 1000m



- A 新田原59号墳
- B 栗別府地区

第1図 平成19年度に調査した遺跡

I 【調査体制】

総括	下村 喜秋 (新富町教育委員会 教育長) ~ 6月
	米良 郁子 (新富町教育委員会 教育長) 7月~
	馬渡 和規 (同 生涯学習課 課長)
	福原 広一 (同 生涯学習課 課長補佐 兼 社会体育係長)
調整・調査	有馬 義人 (同 生涯学習課 主査:文化財担当)
	樋渡将太郎 (同 生涯学習課 主任主事:文化財担当)
作業員	杉尾美千子、甲斐直美、坂本貞夫、溝口敦子、満尾智美、清美貴子、清 久夫 吉永和美

表1 平成19年度発掘調査一覧

	遺跡名	所在地	調査期間	申請者	面積	内容	遺構・時期
1	栗別府遺跡	新田字栗別府	3/24~ 3/31	新富町長	2,874	水道関係	中世の蔵骨器
6	新田原59号	新田14754-1	4/16~ 3/31	新富町長	335	史跡整備	後期の前方後円墳

表2 平成19年度試堀確認調査一覧

	遺跡名	所在地	調査期間	申請者	面積	内容	備考
1	栗別府A	新田字栗別府	11/1 - 12/14	新富町	120	水道関係	土坑・蔵骨器
2	栗別府B	新田字栗別府	12/17 - 12/28	新富町	25	範囲確認	遺構無し

4. 文化財啓発活動

生涯学習や学社融合の一環として、町内外から文化財についての講演や見学会、勉強会等の要望が寄せられることが多い。町教委ではこれらの要望に応えるため、文化財の普及啓発活動の一環として下記の事業を行った。

表3 新富町の文化財啓発活動

月日	内 容	講師・担当	対 象	人数
6/6	新田原古墳群の見学(百足塚古墳)	樋渡	富田小6年	60
6/7	新田原古墳群の見学(百足塚古墳)	樋渡	富田小6年	60
6/28	上箇遺跡出土鏡の貸出し(西都原考古博物館)			
7/22	富田浜清掃①(アカウミガメ関連)	有馬	一般	400
8/25	上新田っ子を育てる会「埴輪作り」	有馬	上新田小・中	60
10/27	富田小文化財愛護少年団活動①「県立博物館見学」	樋渡	団員	15
8/18	富田小文化財愛護少年団活動②「埴輪作り」	樋渡	団員	15
10/20	富田浜清掃②	樋渡	一般	60
11/11	新田原古墳群古墳祭	生涯学習課職員	一般	100
3/1	富田小文化財愛護少年団活動③「土鈴作り」	樋渡	団員	15
年間	一丁田池ピオトーブ	有馬	有志	



II. 平成19年度の試掘確認調査

1. 栗別府遺跡A地点確認

(1) 位置と調査の経緯

栗別府地区は新富町の西部に位置し、西都市と境を接している。眼下には一ツ瀬川が流れ、町の重要な水利施設である金丸堰を見下ろす位置にある。かつては集落が点在していたが、航空自衛隊新田原基地の激基地区に該当することから、昭和40年代に移転が行われ、現在では山林や畑地が広がっている。また、同地区には町指定の天然記念物である春日の大イチョウが存在する。

平成17年に九州を襲った台風は、県内に大雨を降らせ洪水の被害が相次いだ。新富町内でも取水施設が水没し、町全体が数日間断水する事態が発生した。このため現在の取水施設を栗別府地区の河岸段丘上に移転する計画が持ち上がり、平成19年10月頃、町水道課より埋蔵文化財の有無に関する照会があった。

町教育委員会では平成16年度から遺跡詳細分布調査を行い、平成18年度にはその成果をまとめた遺跡地図（改訂版）を発行している。そのなかで栗別府地区は周知の埋蔵文化財包蔵地外となっているものの、すぐ東側の台地上には154基の古墳で構成される祇園原古墳群や祇園原遺跡、春日遺跡といった大規模な遺跡が存在する。また、南側には中世山城である有峯城が位置するなど、周知の埋蔵文化財包蔵地の周辺部にあるといえる。さらに、現場が密集した雑木林であり、現地踏査だけでは遺跡かどうかの判断が困難であることから、トレンチによる試掘調査を実施することになった。

調査は平成19年11月1日から開始し、すべての調査を12月14日に終了した。

(2) 調査の概要

現場は国有林および雑木林となっており、調査に先立って伐採作業を行った。その後水準点・基準点の設置を業者に委託し周辺地形把握のための1/100測量図を作成するとともに、その測量図をもとにトレンチを設定し掘り下げを行った。

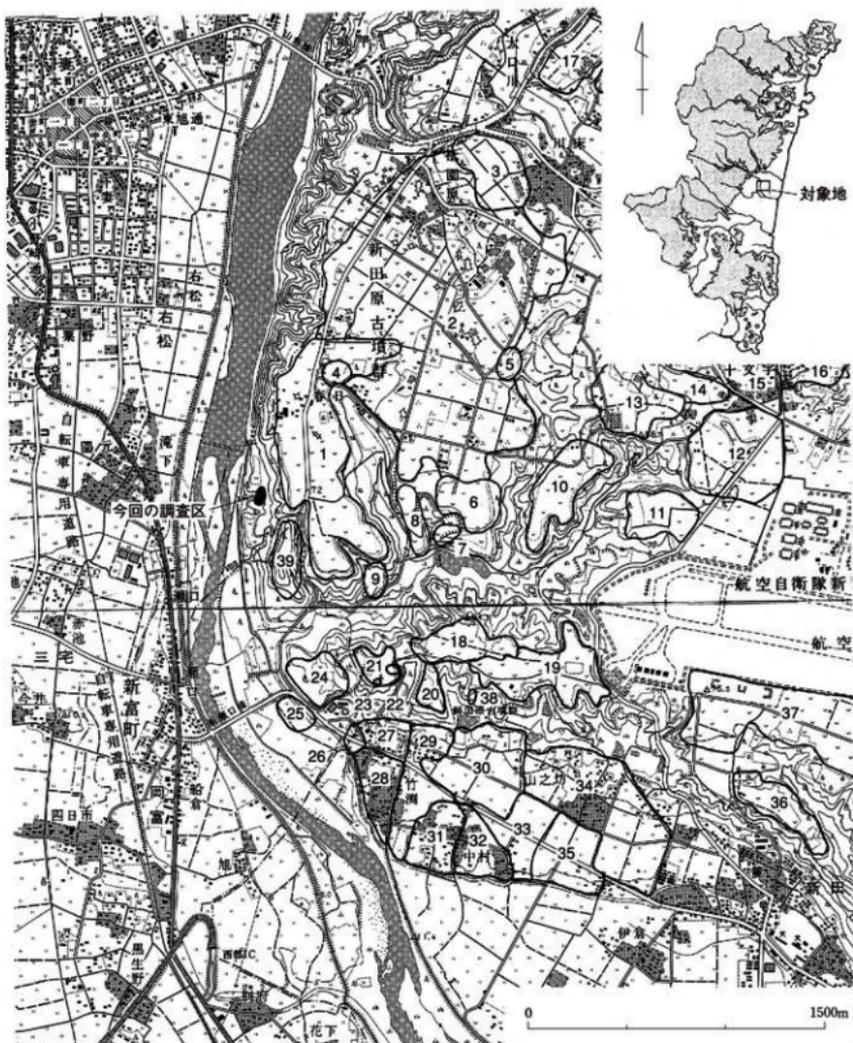
(3) 測量の結果

測量調査の結果、工事対象区は西側の一ツ瀬川に向けて舌状に伸びた丘陵上にある。西側は一段高くなり基壇状を呈している。地元の方の話によると、この場所にはかつて水神様が祀られていたという。基壇状の高まりは盛土ではなく、東側を削平することによって成形された可能性が高いことから、トレンチは基壇およびその周辺を中心に設定した。

(4) トレンチ調査の結果

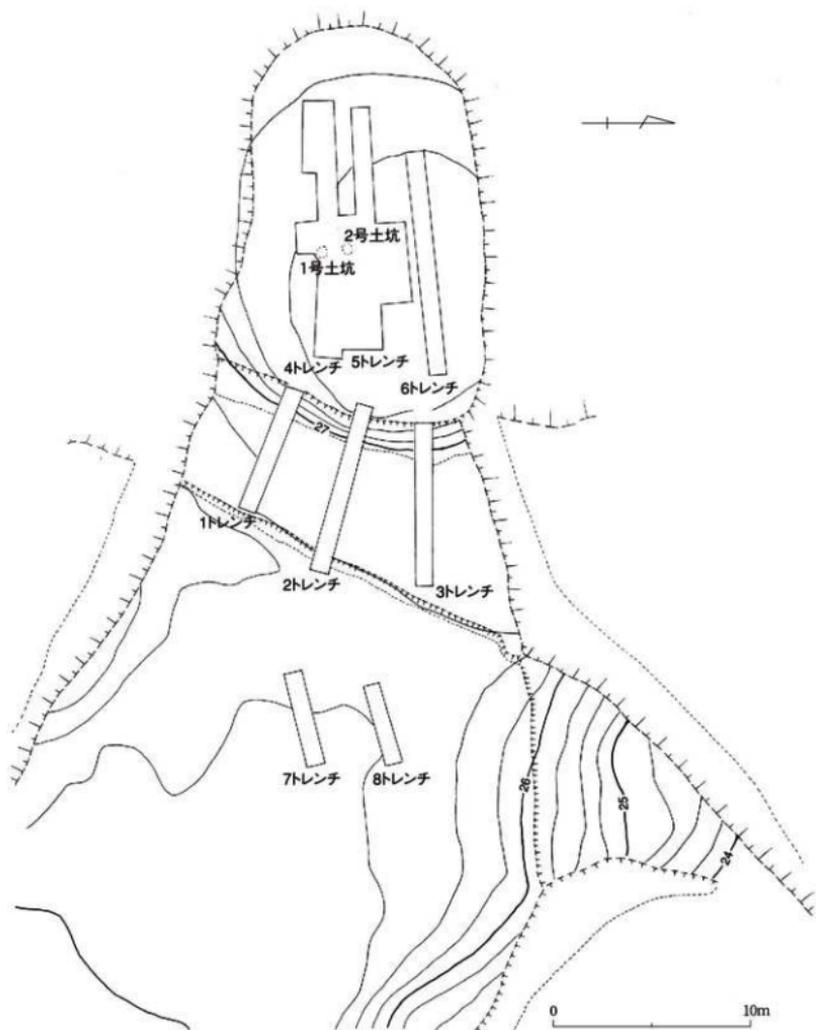
① 1～3 トレンチ

基壇上高まりの斜面およびその東側に設定した。調査の結果、基壇上の高まりは周辺を掘削することで成形したものであることが確認された。また、各トレンチから溝状遺構が検出されたが、埋土の観察などから比較的新しいものである可能性が高い。

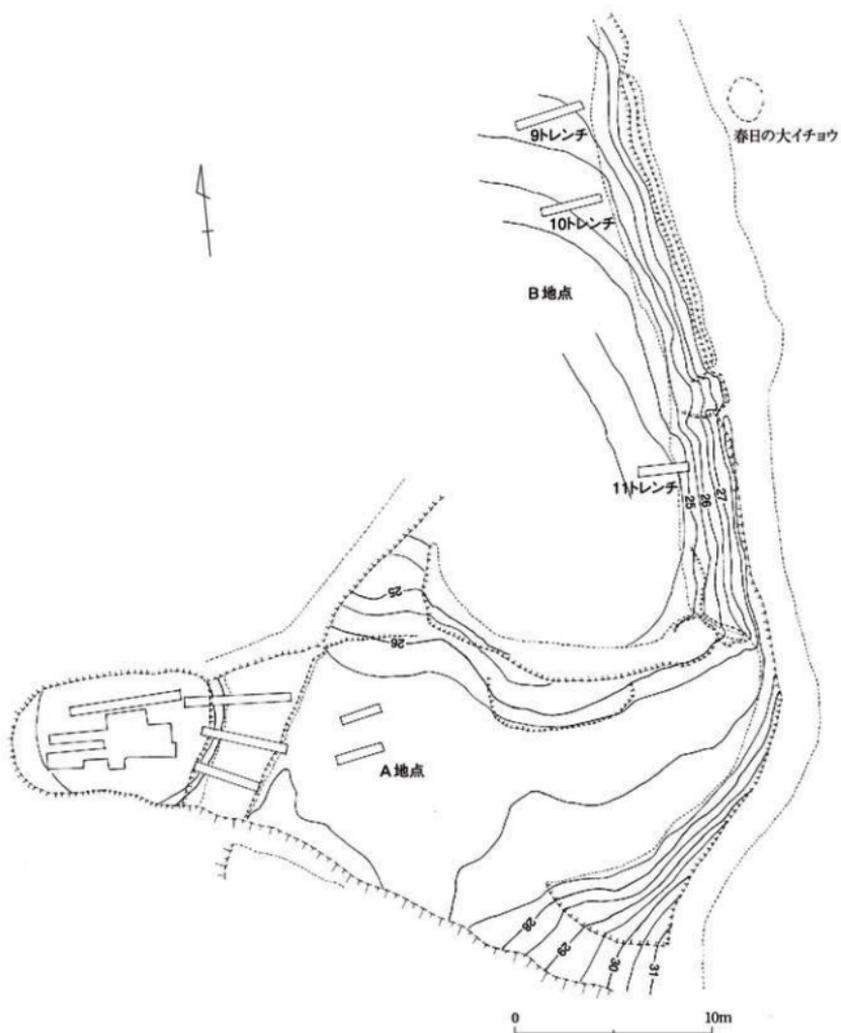


- | | | | | | |
|------------|-------------|------------|----------|------------|------------|
| 1 春日遺跡 | 2 祇園原遺跡 | 3 川床遺跡 | 4 瀬戸口遺跡 | 5 茶碗山窯跡 | 6 向原第1遺跡 |
| 7 向原第2遺跡 | 8 藤山第1遺跡 | 9 藤山第2遺跡 | 10 尾小原遺跡 | 11 新田原第1遺跡 | 12 新田原第2遺跡 |
| 13 永年田第2遺跡 | 14 永年田第1遺跡 | 15 勘大寺遺跡 | 16 鍋山遺跡 | 17 有高遺跡 | 18 八幡上第2遺跡 |
| 19 七又木遺跡 | 20 銀代ヶ迫遺跡 | 21 八幡上第1遺跡 | 22 本蓮寺跡 | 23 竹瀬経筒 | 24 宮ノ東遺跡 |
| 25 宮ノ前遺跡 | 26 竹瀬B遺跡 | 27 竹瀬A遺跡 | 28 竹瀬C遺跡 | 29 楡神遺跡 | 30 西掘田遺跡 |
| 31 西中村遺跡 | 32 中村遺跡 | 33 開元遺跡 | 34 山之坊遺跡 | 35 野中田遺跡 | 36 牧神遺跡 |
| 37 新田原第3遺跡 | 38 銀代ヶ迫横穴墓群 | 39 有峰城跡 | | | |

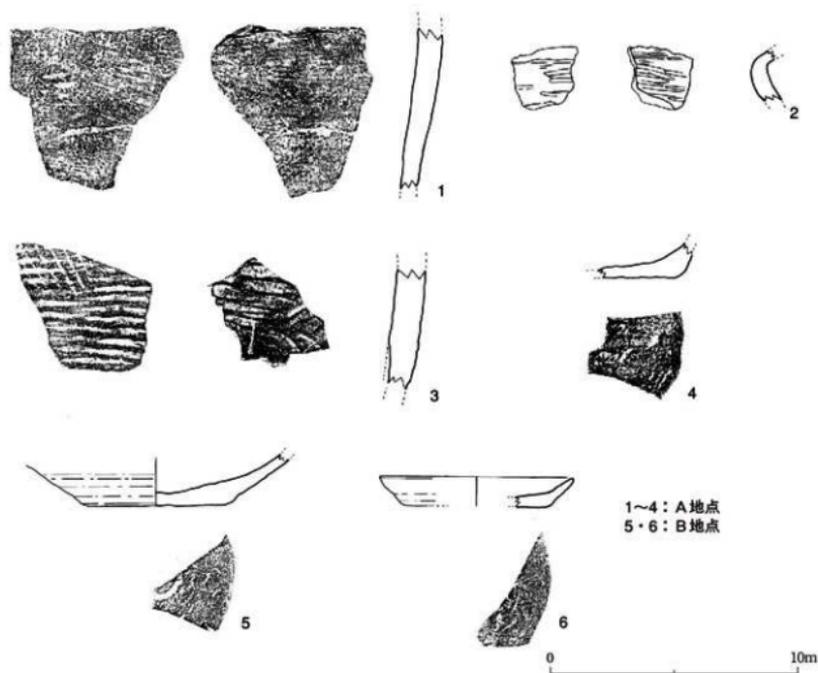
第2図 栗原府地区の周辺遺跡



第3図 栗別府遺跡A地点トレンチ配置図



第4図 栗別府地区周辺地形図



第5図 栗別府遺跡出土遺物

② 4トレンチ

基壇状遺構の南側に設置。幅1m、長さ10mで設定した。人力での表土剥ぎの際に瓦が大量に出土したが、出土位置や形状などからの新しい時期である可能性が高い。その後、地山まで掘り下げたところ土坑1（1号土坑）を検出した。1号土坑は樹根による攪乱が激しく、当初は遺構と認識できなかったが、掘り進めるうちに埋土中から木炭を確認したため、慎重に掘り下げを行ったところ壺1を検出した。壺は土坑のほぼ中央に直立した状態で検出された。その出土状況から葺骨器である可能性が高い。

③ 5トレンチ

基壇状遺構の中央に設置。幅1m、長さ10mで設定した。4トレンチ同様、表土中から瓦が出土した。また、1号土坑と同じように、埋土中に木炭が混在した土坑（2号土坑）を検出した。

2号土坑は1号土坑から1.2m程の位置にあり、長軸1.3m、短軸1mの楕円形を呈する。土坑中央には人頭大の石が確認できた。その他、周辺からは黒曜石やチャートのチップ・フレーク。縄文土器の細片が出土した。

④ 6 トレンチ

基壇状遺構の北側に設置。幅1m、長さ10mで設定した。遺構は確認できなかったが、表土掘削中に瓦や黒曜石、チャートのチップやフレークを確認した。

⑤ 7・8 トレンチ

調査対象区の東側に設置。木の植樹がなされており、地山がかなり削平されていた。表土中からは土器片および黒曜石やチャートのチップ・フレークが出土したが、包含層は既に削平され、遺構は確認できなかった。

(5) 出土遺物 (第5図1~4)

表土中からではあるが縄文土器、黒曜石やチャート、須恵器や土師器片などが出土した。このうち黒曜石やチャートはチップ・フレークのみで石器になるものは出土しなかった。

1と2は縄文土器片である。1は胴部片で内外面とも粗いケズリを施し胎土には金雲母が混じる。後期以降の可能性が高い。2はの精製浅鉢の頸部片である。内外面ともミガキを施す。3は、須恵器片である。胎土はやや粗く、外面には平行叩きが施され、内面には当て具痕が認められる。4は土師器皿の底部である。内外面とも摩滅激しいが、ヘラ切り底の可能性が高い。

(6) 小結

今回の調査では、2基の土坑を検出した。いずれも埋土から木炭が検出されうち1基から、蔵骨器とおぼしき壺を確認した。壺は検出状況段階における観察では、陶器製の四耳壺である可能性が高い。壺の取り上げおよび2号土坑の掘り下げについては、本調査時に行う。また、表土中からは縄文土器片や黒曜石ないしチャートのチップ・フレークが出土した。縄文時代の遺跡はこれまで台地上で多く確認されており、平坦面の少ない河岸段丘上も古くから生活の痕跡となっていることは興味深い。

2. 栗別府地区B地点試堀

(1) 調査の経緯および概要

栗別府地区は周知の埋蔵文化財包蔵地外であったが、A地点における試堀調査において、土坑および縄文時代の遺物を確認した。そこで、遺跡の広がりを確認するため、A地点の北側をB地点とし、地権者の同意を得て試堀調査を行った。現場は竹林となっており、東から西に緩やかに傾斜している。調査に先立って竹の伐採を行った。その後3ヶ所にトレンチを設定し掘り下げを行った。その結果、1トレンチおよび2トレンチでは表土および客土が2m近く堆積しており、現在の地形より急な傾斜であることが分かった。3トレンチでは表土下10cm程で地山を検出したが、遺構は確認できなかった。

(2) 出土遺物（第5図5・6）

表土および客土中からではあるが特徴的な遺物が出土したので紹介しておく。

5は土師器碗の底部で体部には回転ナデを施し、底部はヘラ切りとなっている。6は土師器皿で推定口径7.8cm、高さ1.2cmを測る。体部には回転ナデを施し、底部はヘラ切りとなっている。いずれも15～16世紀代の可能性が高い。

(3) 小結

B地点では遺構を確認することができなかった。また、予想以上に傾斜が急であることが判明した。ただし、表土および客土中から古代ないし中世の土師皿などが出土しており、周辺に当該期の遺跡が存在する可能性が高い。

III. まとめ

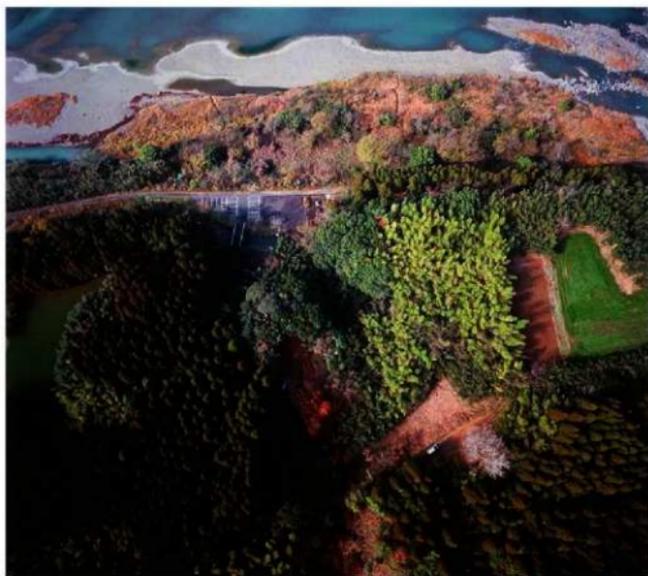
今年度の調査では、栗別府地区から土坑および縄文時代の遺物を確認することができた。とくに1号土坑からは、蔵骨器が検出された。新富町内ではこれまで祇園原⁽¹⁾、竹淵⁽²⁾、越馬場⁽³⁾の3遺跡で蔵骨器が確認されているが、出土状況が判明しているのは祇園原遺跡のみで、県内全体をみても農作業中などの不時発見が多く、貴重な資料となるだろう。取り上げには細心の注意を払いたい。また、縄文時代の遺物が確認されたことで、古くからこのような河岸段丘上を利用していることが分かった。

栗別府地区は昨年度発行した遺跡地図では、周知の埋蔵文化財包蔵地外となっていた。とくに山林などは現地踏査だけでは不十分な点が多く、まだまだ多くの遺跡が存在している可能性がある。同様の開発行為に留意し、定期的な遺跡地図の改訂を行っていきたい。

- (1) 飯田博之「祇園原地区遺跡」東宮農村基盤整備パイロット事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 宮崎県教育委員会 1996
- (2) 蔵骨器ではなく陶製経筒の可能性もある。
- (3) 東 憲章「宮崎の常滑焼集成」宮崎考古 第13号 宮崎考古学会 1996



1. 栗別府地区南側から



2. 栗別府地区真上から



1. 栗別府遺跡A地点調査風景



2. 瓦出土状況



3. 1トレンチ



1. 2 トレンチ



2. 2 トレンチ溝状遺構



3. 3 トレンチ



1. 4-5トレンチ



2. 6トレンチ



3. 石群出土状況



1. 1号土抗壺出土状況



2. 2号土抗検出状況



1. 9トレンチ



2. 10トレンチ



3. 11トレンチ

報 告 書 抄 録

ふりがな	ちょうないいせき					
書名	町内遺跡24					
副書名	平成19年度 町内遺跡発掘調査概要報告書					
巻次	24					
シリーズ名	新富町文化財調査報告書					
シリーズ番号	第50集					
編著者名	樋渡将太郎					
編集機関	新富町教育委員会					
所在地	宮崎県児湯郡新富町大字上富田7491番地					
発行年月日	2008年3月31日					
ふりがな 所収遺跡・地区名	ふりがな 所在地	コード		調査期間	調査面積	調査原因
		市 町村	遺跡 番号			
<small>くりべつぷいせき</small> 栗別府遺跡A地点	<small>あおあざにやうたあざくりべつぷい</small> 大字新田字栗別府	47	-	071101～071214	120㎡	水道施設
<small>くりべつぷいせき</small> 栗別府遺跡B地点	<small>あおあざにやうたあざくりべつぷい</small> 大字新田字栗別府	47	-	071217～071228	25㎡	範囲確認
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
栗別府遺跡A地点	その他の墓	中世	土抗	蔵骨器・土器片	蔵骨器	
栗別府遺跡B地点	散布地	中世		土器片		

新富町文化財調査報告書 第50集

町 内 遺 跡 24

発行年月日 2008年3月
 発行 宮崎県新富町教育委員会
 印刷 株式会社印刷センタークロダ